

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年6月17日(2010.6.17)

【公表番号】特表2010-513229(P2010-513229A)

【公表日】平成22年4月30日(2010.4.30)

【年通号数】公開・登録公報2010-017

【出願番号】特願2009-540327(P2009-540327)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/167 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/198 (2006.01)

A 6 1 K 9/48 (2006.01)

A 6 1 P 1/16 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/167

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 31/198

A 6 1 K 9/48

A 6 1 P 1/16

【手続補正書】

【提出日】平成21年6月29日(2009.6.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アセトアミノフェンによる治療の対象となる痛みまたは他の感覚運動系機構(aliment)の治療のための組成物であって、

アセトアミノフェンおよび n - アセチルシステインを含有し、

肝毒性を生じることが知られている用量のアセトアミノフェンを含有する量の前記組成物を服用する患者が、肝毒性を全く有さないか、または肝毒性に対する付加的な治療を必要としない程度の、弱い肝毒性を有する組成物。

【請求項 2】

哺乳動物のための組成物であって、

アセトアミノフェン投与による肝毒性作用が、n - アセチルシステインなしでの等量のアセトアミノフェンの投与に対して軽減されており、

前記組成物は、少なくとも 45 キログラム(100 ポンド)の重量を有する成体哺乳動物に対して、1 日当たり少なくとも 4 グラムのアセトアミノフェンを、回復不能な肝障害作用を有することなく投与することができるように投与可能な請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

n - アセチルシステイン投与に係る嘔吐を軽減するように調製される請求項 1 または 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

前記組成物は、制吐薬および n - アセチルシステインに関連する臭気を緩和するための成分の少なくとも一方を含有する請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 5】

固形組成物またはカプセルに調製される請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 6】

抗ヒスタミン剤、制吐薬および麻酔薬の少なくとも 1 つをさらに含有する請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 7】

興奮剤、H 1 ブロッカー、H 2 ブロッカー、抗炎症剤、プロトンポンプ阻害薬、緩下剤、5 - H T 3 ブロッカー、不安緩解剤および筋弛緩剤から選択される少なくとも 1 つの化合物をさらに含有する請求項 1 乃至 6 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 8】

香料をさらに含有する請求項 1 乃至 7 のいずれか 1 項に記載の組成物。